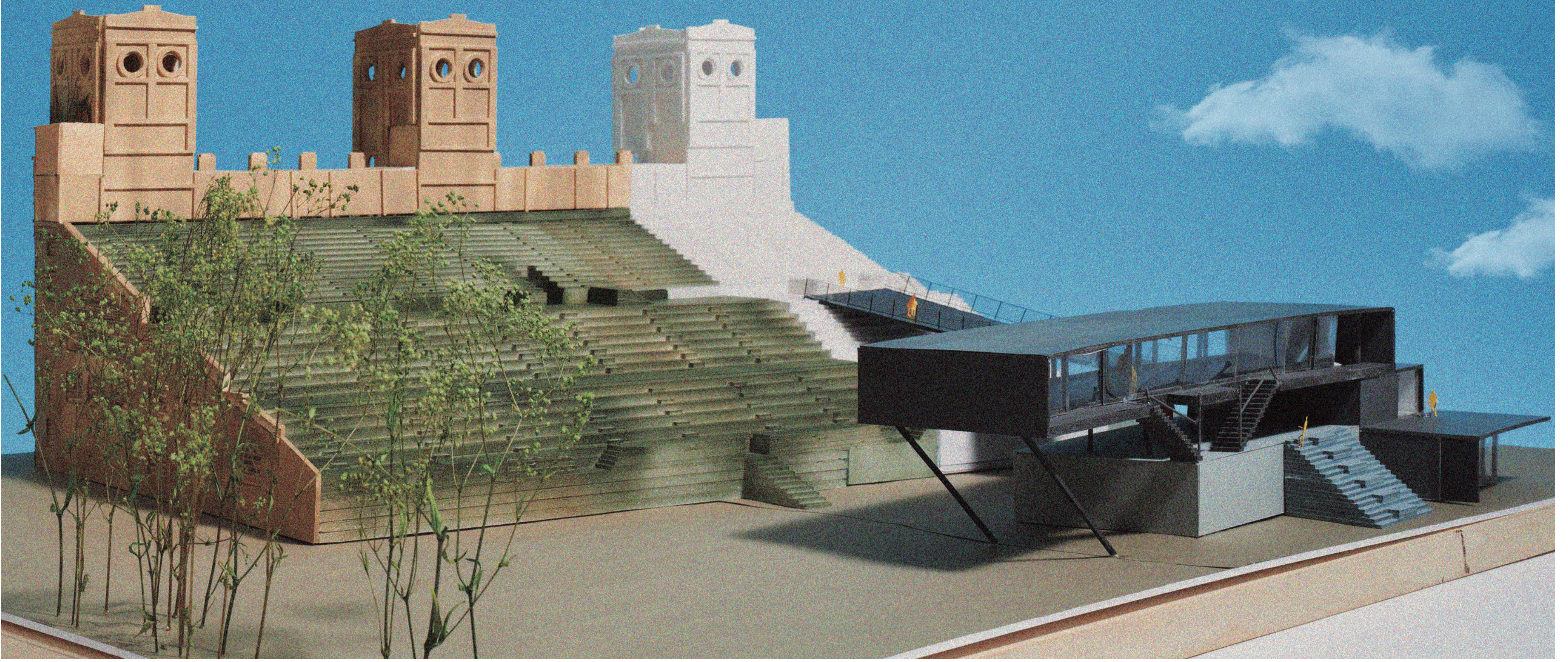


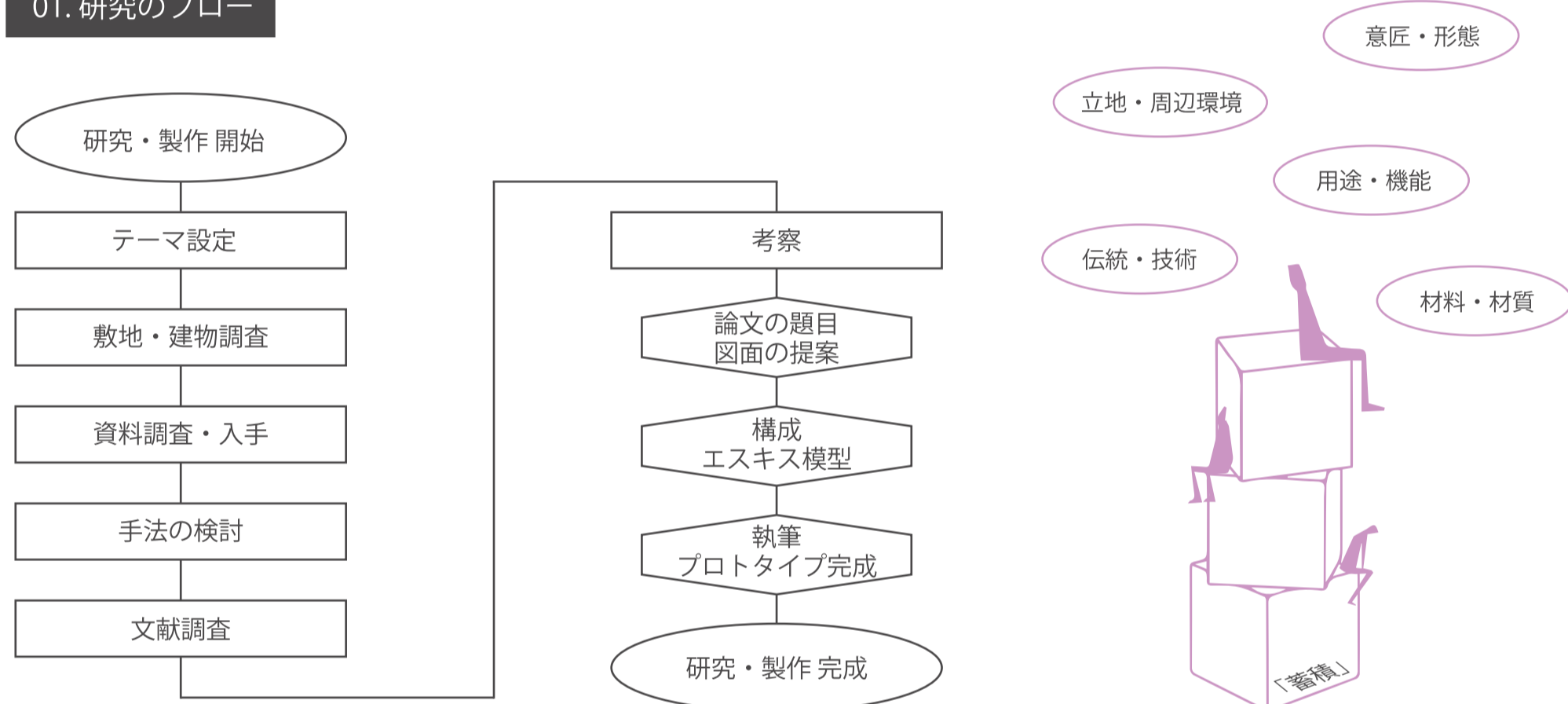
根岸競馬場におけるアダプティブユース

— 近代建築の保存再生手法とそのプロトタイプ



現存する歴史的建造物は、建設以来から今日に至るまで絶えず人の力により存在している。建設時のみならず、その後の時の流れや加えられた蓄積全てがその建造物の価値となる。それまでの蓄積を壊さぬよう、建築遺産として、建築資産として、後世に引き継がれていく存在として、絶えず人が手を加え支えていく必要がある。それらも全て「蓄積」のひとつとして正当な評価を受けるべきである。

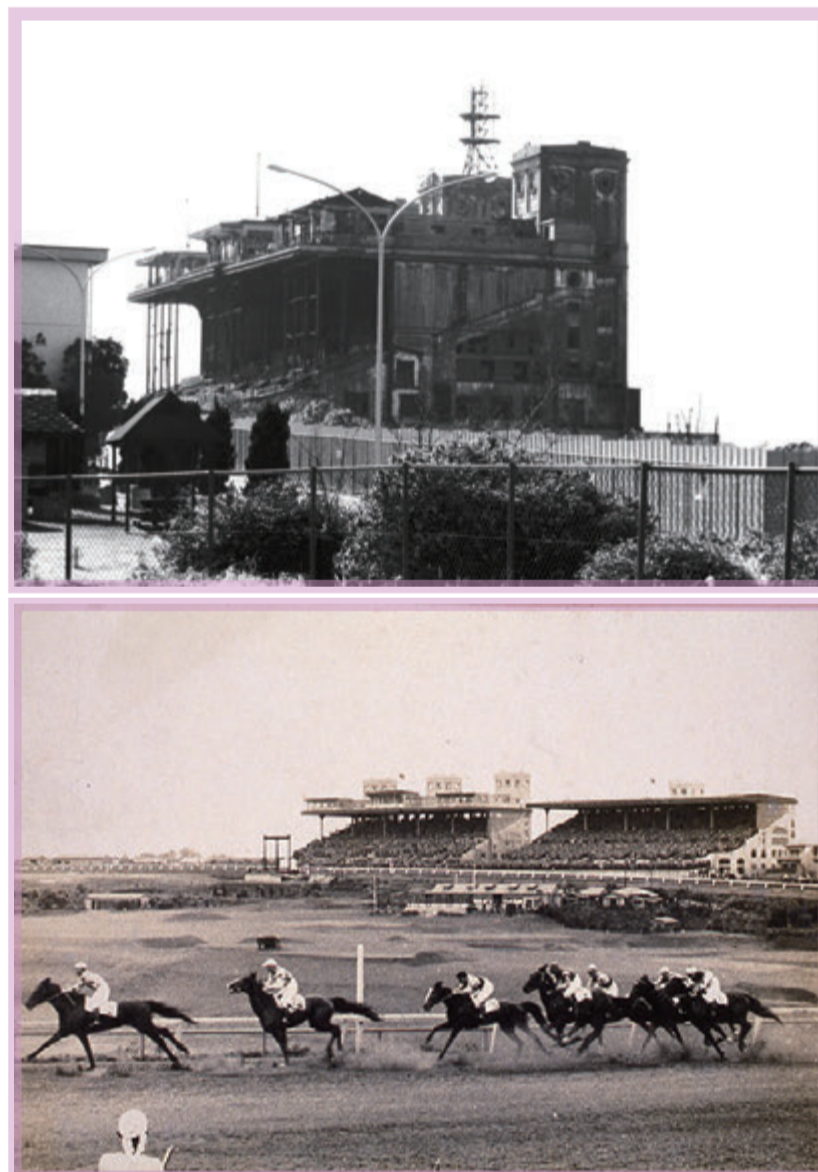
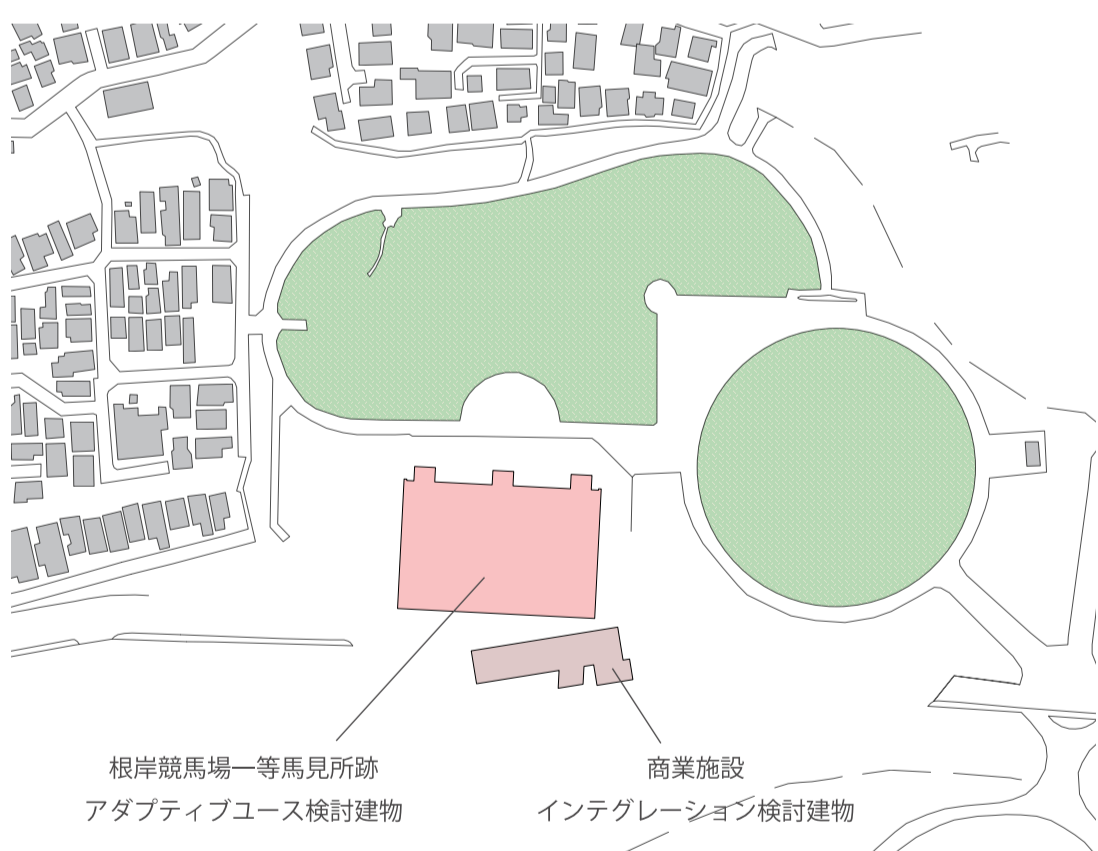
01. 研究のフロー



02. 研究対象となる敷地・建物

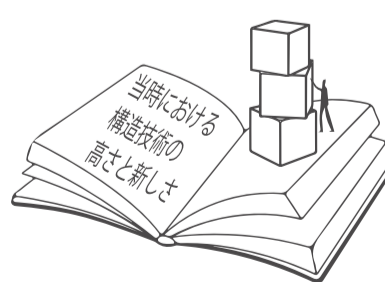
「根岸競馬場一等馬見所跡」

〒231-0856
神奈川県横浜市中区養沢 13-283



03. 歴史と価値

1866年	根岸競馬場開設	開設当初は外国人居留地における娯楽施設だった次第に日本人も参加するようになる
1923年	競馬場半壊	9月の関東大震災によって根岸競馬場の施設は半壊
1929年	根岸競馬場一等馬見所竣工	J.H. モーガン設計 鉄骨・鉄筋コンクリートのスタンド工事に着手
1942年	競馬場休止	戦争の影響によるもの
1943年	正式に閉場	地方競馬が廃止となり競馬場が事実上閉鎖された
1945年	連合軍が接収 米軍接収地となる	軍港が一望できる施設であるとして海軍省に接収 芝生はゴルフ場に 空き地はプールに
1969年	競馬場接収解除	地域住民は解除地を地域のために有効活用したいと熱望 緑豊かな公園の実現のため中区民大会が開催
1977年	公園として再整備されオープン	「根岸森林公園」



04. 論文

根岸競馬場におけるアダプティブユースの検討及び近代建築の保存再生手法に関する分析

○研究の背景と目的

神奈川県横浜市中区根岸に建つ根岸競馬場一等馬見所跡は近代化産業遺産に登録されている。しかし、現在は修復が施されることなく放置され、鉄骨の劣化や汚れにより建築遺産としての価値が薄れている。そこで、保存再生手法を用いた改修を行い、改めて根岸競馬場の在り方を価値あるものにし、後世でも資産として残るよう検討すべきだと考える。建築遺産の改修を進めるにあたっては、三つの側面からの取り組みが求められる。一つは、歴史・意匠の伝承。もう一つは、建築・文化の更新。最後に、修復方法の継承である。これらを統合し計画することで改修の可能性が広がるだろう。

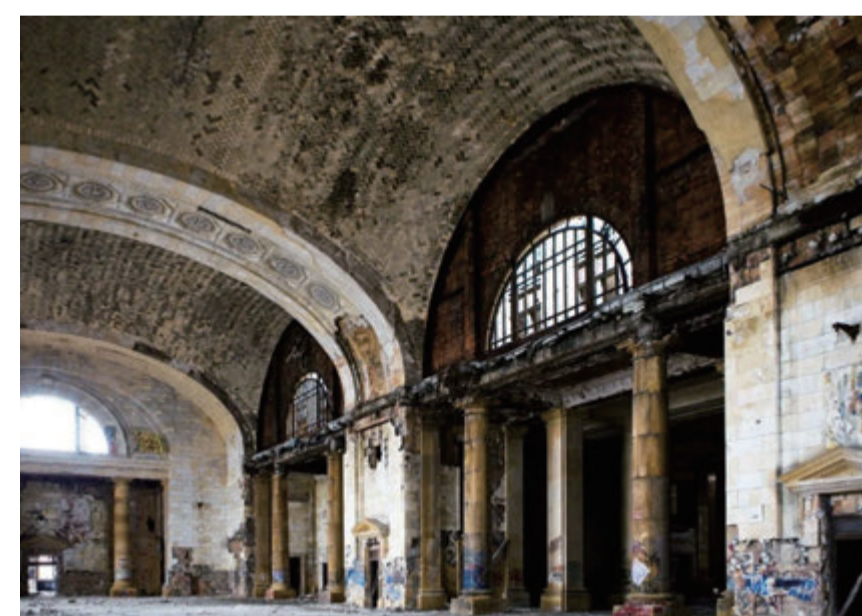
本報では、これら観点から建築遺産の保存再生事例を幅広く収集し、そこで用いられている手法が改修に至るまでの問題点を整理し、根岸競馬場一等馬見所跡にふさわしいと考える保存再生手法の分析及び提案を行う。

○調査概要

第一に、文献調査を行った。保存再生が施された建築遺産について、その事例を整理した。第二に、文献調査の結果から根岸競馬場一等馬見所跡に適していると考えられる手法を抽出した。まず、近代建築による保存再生事例を対象とすることを条件とした。また、比較のため、建物に新たな価値と目的をもたらす役割が加えられたものを対象とした。具体的には、単に改修を行ったものだけでなく、内外装の快新、歴史の保存活用など建物の総合的な利用価値の向上を合わせて行ったものを選定した。

○事例の概要及び特徴

① ミシガン・セントラル駅



② 沙井村ホール



○根岸競馬場に適した保存再生手法の検討

上記の事例から、アダプティブユースが最も最適な手法であると考えられる。アダプティブユースとは、適応型再生利用のことを指す。リノベーションよりも文化性が高く、建築物を捉え直し新しい時代に適した形で積極的に活用することに重点を置いているため、オリジナル性を保存継承するための技術として存在すると共に、遺し方に大きく影響を与える方法だと考える。

○改修における補強問題と条件

各工法の補強箇所は、その建物の状態や建設に使われた部材等、複数の制約条件に応じて決定されている。中でも、再生され更新される平面計画への影響は大きい。用途変更を伴う改修では、機能の配置や平面計画と併せて補強位置の設定を行うことが問題解決につながる。

○一棟改修における構造計画

耐震壁やブレース新設といった強度補強は一般的に補強箇所が多く開口部の減少や平面計画への影響が問題となる場合がある。しかし、用途変更に伴い、構造計画と機能の再配置、内外装・設備更新等の複合的な検討によって補強箇所を設定すると影響は問題とならない。

○まとめ

根岸競馬場一等馬見所跡に最も適した保存再生手法の検討のため、調査を行った。調査では事例を複数調べることで、手法の整理と計画の可能性について検討した。それらから、建築遺産の残し方について検討すべき問題点が多数挙げられた。建物が建てられた歴史や建築家の意匠の価値を後世に残していく必要があると考えられる。そのために改修をし安全面機能面設備面を、更新していく必要がある。そして、その手法を次へ継承する。このプロセスが重要になる。以上全てを含め、根岸競馬場一等馬見所の保存再生手法にはアダプティブユースが最も最適な方法であると考えられる。